



abc株式会社 中期経営計画 進捗報告

PROOF OF PLATFORM

2026年4月版

「利益を証明した」次は「プラットフォームを証明する」

H1 純利益
25.68億円

BaaS支援実績
10件

提携先
46社

CONTENTS

目次（全35ページ）

序章 The Platform Phase

第1章 Treasury Strategy

第2章 Tokenomics Platform

第3章 AI Solutions

第4章 Strategic Investment
& Global Pivot

第5章 Global Alliance

第6章 M&A & RWA Fund
House of Doge

終章 Vision Update

Disclaimer

序章

The Platform Phase

NASDAQ上場企業House of Dogeとの事業連携が始まり、ドバイに拠点を構え、他の上場企業がabcのトークンを採用し始めた。この半期、Q2の評価損▲19.62億円を吸収してなお**25.68億円**の純利益を計上した。前期（5ヶ月決算）の純利益5.3億円に対し約**4.8倍**。「利益が出るか」の問いには数字で答えた。本資料は「次に何を建てるか」を示すものである。

H1 純利益

25.68億円

前年比

4.8倍

評価損吸収

19.62億円

Before / After

項目	Before (2025年10月)	After (2026年4月)
メインテーマ	Proof of Profit	The Platform Phase
利益規模	5.3億円 (5ヶ月)	H1純利益 25.68億円 (Q2評価損吸収済)、通期 62.0~65.5億円
NASDAQ連携	なし	House of Doge (TBH) 合併承認・事業連携開始
トークン他社展開	自社導入のみ	BaaS支援実績 10件 。Meme Factory・MVMNT稼働、Mars X DAO・THE 27min ORACLE等へ技術提供拡大
グローバル拠点	構想レベル	ドバイ事務所設立済 (IR開示済)
収益構造	暗号資産ディーリング一本	ディーリング + BaaS + RWA + AIの四層化へ移行中
章構成	4章19P	8章 (序章+6ブロック+終章)

Key Numbers & ファクト

25.67億円

H1 純利益

62.93億円

H1 暗号資産売却益

10件

BaaS支援実績

46社

提携先

(IR/PRベース。非開示分除く)

ファクト

- 2025年8月期（5ヶ月決算）：純利益5.3億円 → 2026年8月期Q1（3ヶ月）：純利益31.92億円 → H1（6ヶ月）：純利益**25.67億円**
- Q1の3ヶ月で前年5ヶ月決算の約6倍。Q2に評価損▲19.62億円があってもH1累計で前年の約**4.8倍**
- H1暗号資産売却益：62.93億円（Q1: 46.13億 + Q2: 16.80億）
- H1売上高：11.73億円 / 営業損失：▲**10.53億円** → プラットフォーム構築への戦略的投資により営業損失が発生
- フェーズ進行：Profit Phase（完了） → **Platform Phase（現在地）** → Protocol Phase（次）

■ 第1章：Treasury Strategy



Q1暗号資産売却益

46.13億円

H1累計暗号資産売却益

62.93億円

H1経常利益

31.11億円

📄 Q1暗号資産売却益：46.13億円（経常利益37.55億円を牽引）

📊 H1累計暗号資産売却益：62.93億円。Q2に評価損▲19.62億円があってもH1経常利益31.11億円を確保

🛡️ デルタニュートラル運用の精度向上：相場変動リスクを抑制しつつ収益最大化

🚀 前回報告時のCrypto-Yield 16.3億円 → 半期だけで約4倍に拡大

■ 第1章：Treasury Strategy



1-2. ツインエッジ・トレジャリー

BTC + DOGE + Mars X 複合型暗号資産トレジャリー戦略

稼働中

2026年2月始動

i ※BTC・DOGEは取得計画中。現在の主要保有資産はWWB、NYAN等
(2026年2月28日時点)

1-3. ステートルトレジャリー構想

安定資産を組み合わせた 多層トレジャリー

検討中

市場環境・規制動向により変更の可能性あり

📊 多層的ポートフォリオ：BTC準備資産に加え、DOGE等のミームコインや注目プロジェクト（Mars X等）を組み合わせた戦略

🛡️ リスクヘッジと高収益の両立：単一資産リスクを軽減しつつ、ボラティリティを活用した高収益化を狙う

📈 段階的な取得計画：市場環境・トレンドを見ながら順次ポートフォリオへ組み入れ予定

📊 キャッシュフローの安定化：市場の横ばい・下落局面でもステーブル資産により安定した収益基盤を確保

🔄 動的な資産再配分：上昇局面ではBTC/アルト運用で積極収益を狙い、局面に応じて資産比率を最適化

🏛️ 制度的トレジャリーの確立：「攻め」と「守り」を内蔵する持続可能なモデルを構築

■ 第1章：Treasury Strategy

1-4. ヘクトコイントレジャーリー — 海外ユニコーン級スタートアップへの株式投資戦略

ヘクトコイントレジャーリーとは、時価総額1,000億ドル級（ヘクトコーン）の海外スタートアップへの株式投資を通じて、abc自身の企業価値を次のステージへ押し上げる戦略である。

暗号資産ディーリングへの依存構造から脱却し、非暗号資産領域への資本展開を図る「攻めの資本戦略」として位置づけている。

◎ 戦略の核

- 世界最高水準の成長機会（ヘクトコーン級企業）へのエクスポージャー確保
- 「ヘクトコーンに相乗りしてヘクトコーンを目指す」 — 自社の時価総額を引き上げる

想定領域

- 🚀 宇宙産業（SpaceX等）
- 🧠 AI・半導体・フロンティアテクノロジー
- 💰 フィンテック・Web3インフラ

※本戦略は段階的に実行されるものであり、投資案件の成立・実行時期は市場環境により変動します。

1-5. SpaceX投資 — ヘクトコーントレジャリーの戦略的第一手

SpaceX

Layer 2: Equity Finance 実行第一弾

投資先

Space Exploration Technologies Corp. (SpaceX)

宇宙輸送・衛星通信・火星探査を手掛ける米国企業

投資金額

\$1,066,000 (約1.7億円)

投資事業有限責任組合 (LP) 経由

契約締結日

2026年2月27日

払込完了日

2026年4月1日

投資形態

投資事業有限責任組合 (LP) 経由

「暗号資産だけの会社」から「資本戦略を持つ会社」への転換シグナル
宇宙産業という「非暗号資産領域」への資本展開 = 資本市場における評価再定義

abc事業ポートフォリオ — 3 Pillars

当社の暗号資産関連事業は以下の3本柱で構成されています:

1. Equity Finance

BTC準備資産を基盤とした資本戦略

※BTC準備資産は取得計画中
(2026年2月28日時点)

2. Token Manufacturing

BaaS・Meme Factory・RWA等のトークン生成事業

3. Token Dealing

暗号資産ディーリング・DEX運用

チャート構成

- **トレジャリー進化ステップ:** 持つ (Hold) → 運用して増やす (Grow) → 制度化する (Institutionalize)
- **四層構造:** BTC準備資産 / Equity Finance / Token Manufacturing / Token Dealing
- **ツインエッジ3資産:** BTC (コア資産) + DOGE (NASDAQ連携) + Mars X (宇宙事業)

エビデンス

- Q1実績数値 (46.13億円売却益)
- ツインエッジ・トレジャリー始動 (2026年2月 適時開示)
- BTC追加購入 (トレジャリー戦略の一環)
- SpaceX投資契約締結 (2026年2月) — 投資領域の宇宙産業への拡張

■ 第2章 : Tokenomics Platform



トークンが「体験」「人」「資産」「取引」を横断するデュアル基軸構造

アーキテクチャ (4レイヤー・フルアーキテクチャ図)

L1: USER TOUCHPOINTS

(ユーザー接点)

CGJ/クレマス | WOWOO SocialFi | MVMNT Shop
Nyan Race | AI Nyan | Fighters Guild



L2: PRODUCT PLATFORMS

(プロダクト基盤)

Meme Factory | abc RWA | IFO Engine | MVMNT Platform | NYAN Stakes | comcom Analytics

L3: TOKEN LAYER

(トークン層 - 5カテゴリ体系)

- ① **Community Core: \$NYAN**
(コミュニティエンゲージメントの中核)
- ② **Ecosystem Base: WWB**
(エンタメ・NYANのエコシステムの基軸通貨)
- ③ **Governance: \$GJ Token**
(NYANエコシステムのガバナンス)
- ④ **RWA Core: AGF・ZMAT**
(RWA構想の中核エコシステム)
- ⑤ **Meme Liquidity: その他**
(ミームエコシステムにおける流動性供給機能)



L4: INFRASTRUCTURE

(インフラ)

WOW Dex | Hyper NYAN | Smart Contracts | Multi-Chain | Security & Audit



2-1. エンタメ × WOWBIT (WWB)

— 基軸トークンの一翼

↔ **デュアル基軸トークン**：WWBはNYANと並ぶabc経済圏の基軸。NYANが株主優待・ステーキング軸に対し、WWBはエンタメ・決済・SocialFi軸として補完。

👥 **外部DAO採用**：Fighters DAOが基軸通貨としてWWBを採用（IR開示済）。

🎮 **エンタメ起点**：クレーンゲーム（CGJ）× NFT × ふるさと小包を通じたトークン流通。

🌊 **流動性基盤**：WOW Dex（2025年10月正式リリース済）が流動性基盤として機能。

📱 **アプリ対応**：WOWOO SocialFiアプリiOS版リリース（2026年1月）。マルチチェーンウォレット対応。



2-2. Fighters Guild

選手支援

トークノミクス (IFO)

設計完了・契約協議中

Fighters Guildインフラ：一般社団法人Fighters Guildが運営する格闘家支援インフラ

IFO (Initial Fighter Offering)：選手個人の「Fighter Token」を発行し、ファンの応援を投資に転換

段階的ロック設計：選手の活動マイルストーン（復帰戦・タイトルマッチ等）に連動したトークンリリース条件

技術監査パートナー：abcがスマートコントラクト・トークノミクス設計を担当

「人的価値」のトークン化：スポーツ×Web3のグローバルモデルとして展開予定

※IFOは設計段階であり、規制環境・市場動向・契約協議の進展により、実装時期・内容が変更となる可能性があります。

すべてのファイターが守られ、報われる世界へ。

A world where every fighter is protected, and rewarded.

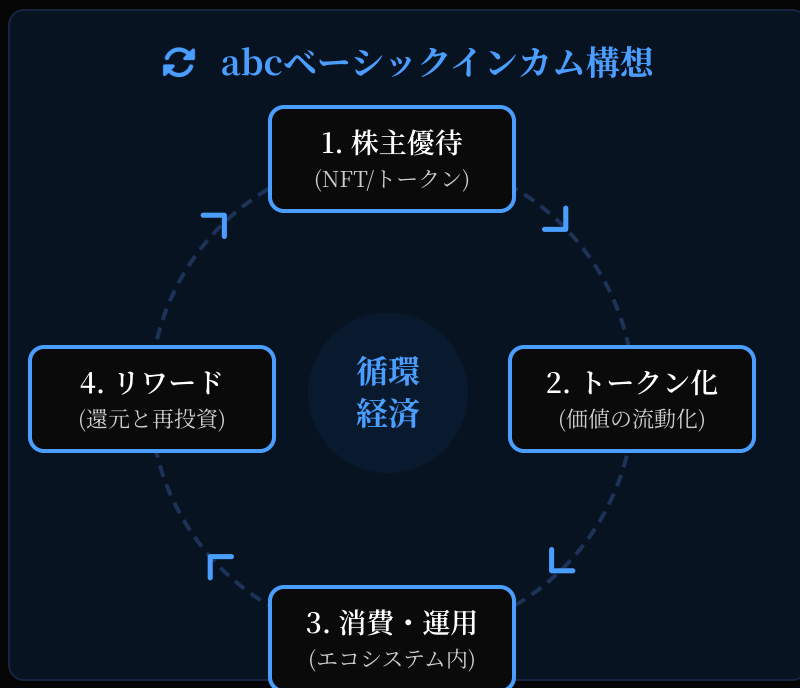
※一般社団法人Fighters Guild（現在登記申請中）

2-3.

NYAN エコシステム拡張



優待 × DeFi × MVMNT統合



🎁 既存のトークン型優待モデルの横展開

- 自社での\$NYAN NFT優待運用から、他社への横展開（BaaS型）へ進化
- ウインタレスト社（証券コード: 6721）の\$NYAN活用優待施策を業務受託

🔗 統合型DeFiインフラの構築

- Hyper NYAN (Perpetual Market): ローンチ済み・アップデート継続中
- Margin Trade System: マージントレード（証拠金取引）【爆速で開発中】
- Options Trade: オプション取引システム【爆速で開発中】

→ Perpetual × Margin × Options の強力なプロダクト群へ


🎁 優待トークノミクス × MVMNT統合

- 株主優待の拡充を目的とした新しいトークノミクスの整備
- \$NYAN優待システムとMVMNTプラットフォームのシームレスな統合
- Web3と実体経済を繋ぐ、実需に基づくトークン消費サイクルの確立

2-4.

RWA × 擬似金融商品トークノ ミクス

 abc RWA : 現実資産トークン化支援プラットフォーム (2026年3月正式リリース)

 NyanmaruGOLD Coin : ゴールド資産裏付けRWAトークン組成

 IP・不動産・エンタメ収益権のトークン化 → 前回IPFi構想の進化形

2-5.

Web3ゲーム & DEXプラットフォーム

 Project GJ (Web3 TCG) : GYAN BLUEを基軸通貨にIPFiプラットフォーム共同運営。\$GJトークン正式ローンチ (2026年3月)

 Nyan Race : TONチェーン上のPlay & Earn Web3レースゲーム

 Hyper NYAN : DEX型Perpetual Market / 無期限先物取引プラットフォーム



2-6. 暗号資産決済マーケットプレイス【開発中・ティザーサイト公開済】

- 寄付機能付き暗号資産決済型マーケットプレイス
- ShopFi (Commerce Layer) : Buy Now / Auction / Raffle / Mystery Box の4フォーマット
- **Brand Token (BT) システム** : 出店者が独自トークンを発行し、顧客をステークホルダー化
- **Memecoin Launchpad (FYL)** : ゲーム理論に基づく構造化トークンローンチ
- 寄付レイヤー : 全取引から自動寄付 → オンチェーンで透明性確保
- **Agentic Economy (将来コア)** : AIエージェントが自律的に売買・交渉・DeFi運用を実行

MVMNT 7-LAYER ARCHITECTURE

- 1 ShopFi — Commerce Layer
- 2 Brand Token — 顧客ステークホルダー化
- 3 FYL — Memecoin Launchpad
- 4 寄付レイヤー — オンチェーン寄付
- 5 Pulsebook — NPO向けSocialFi
- 6 Agentic Economy — AI自律運用
- 7 統合エコシステム — 全レイヤー連結

2-7. Meme Factory

BaaSミームトークン生成プラットフォーム

「暗号通貨メーカー」モデルを体現する、BaaS型のミームトークン生成基盤。誰でも容易にトークンを発行・運用できる環境を提供し、ミームエコシステムを急速に拡大させます。

🌟 ライセンス提供実績

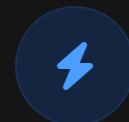
- CANON Attack
- THE 27min ORACLE

👍 システム横展開によるマネタイズをすでに実現

🛠️ BaaS支援実績 10 件と強力に連携

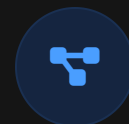
展開中のBaaS支援プロジェクトのうち、複数案件でMeme Factoryを基盤システムとして活用予定。

量産体制を支えるバリュープロポジション



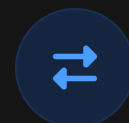
低コスト・高速生成

独自システムにより開発リソースを最小化。最短スピードでのトークン生成・デプロイを実現。



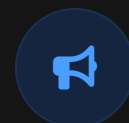
トークノミクス設計支援

長期的に持続可能なエコシステム構築のための、最適なトークン配分とインセンティブ設計を提供。



DEX上場支援

初期の流動性プールの構築から主要DEX（分散型取引所）へのリスティングまでを一気通貫でサポート。



マーケティング支援

熱狂的なミームコミュニティの形成、グローバルKOLとの連携、戦略的エアドロップ等のプロモーション。

■ 第2章：Tokenomics Platform



BaaS支援実績 10件

#	名称	内容	ステータス
1	ウインテスト (6721)	\$NYAN活用 株主優待制度設計・運用支援	契約締結済
2	Fighters DAO	WWB基軸採用・IFOモデル設計・SC監査	設計完了
3	CANON Attack	Meme Factory BaaS支援第2弾・ミームトークンシステム	リリース済
4	THE 27min ORACLE	CANON Attackライセンス提供・デジタルアセット生成	稼働開始
5	Mars X DAO	abc BaaS技術提供・宇宙推進事業プロジェクト	技術提供中
6	ZoomArt	RWAトークン (ZMAT) 上場支援・地方創生×RWA	BitMart上場済
7	Animoca Brands Japan	NYANMARU Acceleration Program・\$NYANグローバル展開	提携中
8	MVMNT	コマースプラットフォーム トークノミクス設計・インフラ	開発中
9	<small>WLF PROJECT</small> WLF PROJECT (人狼ゲーム)	MEME FACTORY活用 Solanaトークン開発・DEX上場支援	DEX上場済



3-1. AI Nyan

AI人材育成プログラム

- AI Nyan株式会社（2025年7月設立）が運営
- AIエージェント・AIクリエイティブ・AIリテラシーの3講座
- 企業向けAIリスキリングプログラム — 組織の競争力向上
- Learn to Earn機能：学習活動に\$NYANインセンティブ付与
- 2026年1月β版検証開始済 → 本格展開フェーズへ

3-2. Super Micro Computer

AI特化型データセンター事業

【基本合意済・協議継続中】

- NASDAQ上場スーパーマイクロ（SMCI）とAI特化型データセンター事業で基本合意（2025年1月）
- GPU・高性能コンピューティング領域での協業
- SMCIの顧客ネットワーク活用・GPU調達支援



3-3. comcom Analytics

Discordコミュニティ 分析基盤 【稼働中】

3-4. AI Solutions

AIソリューション 新規展開

事業譲受：2025年11月、株式会社ニューピースから譲受（価額4,400万円）

分析データ基盤：Discord特化型ツール。導入サーバー数4,000超、749万ユーザー

「人」に焦点を当てた統計：メンバー関係性・エンゲージメントモニタリング
展開領域：Web3・DAO / IP・コンテンツ / カスタマーサクセス・AI

企業向けAI開発：社内業務効率化から外販モデルへの展開

AI × Web3の融合：AIエージェント × トークンエコノミー等の新規領域

Key Metrics & エビデンス

4,000超

comcom Analytics導入サーバー数

749万ユーザー

comcom Analyticsデータ基盤

エビデンス

- AI Nyan株式会社設立済（2025年7月）
- Super Micro Computer基本合意（2025年1月 適時開示）
- comcom Analytics事業譲受（2025年11月 適時開示）
- 企業向けAI人材育成プログラム展開中

4-1. 収益構造の 戦略的再構成

H1 営業損失（プラットフォーム構築投資フェーズ）

▲ 10.53億円

H1 売上高

11.73億円

通期 売上高目標

37.25~57.25億円

Before（～2025）

単一収益構造

- ・暗号資産ディーリング中心
- ・トレジャリー運用益への依存
- ・相場変動リスク大



After（2026～）

多角化・安定化構造

- ✓ トークノミクス（BaaS）収益
- ✓ AI Solutions 収益
- ✓ グローバルIP展開・金融サービス

📊 セグメント別H1実績：

- ・サイバーセキュリティ：売上4.44億円・営業利益0.63億円 | ・空間プロデュース：売上3.01億円
- ・ゲーム：売上1.71億円 | ・Web3：セグメント利益41.1億円

↗ 営業利益逆転ドライバー（H2）：

金融サービスBaaS収益開始、CGJ季節繁忙期、Metabit等営業収益、新規子会社BandGによる収益貢献

⚠ リスク認識と継続企業の前提：

営業利益の黒字化が移行指標。(1)暗号資産トレジャリーによる安定的CF創出、(2)BaaS事業の営業収益化、(3)金融サービス事業の拡大（House of Doge連携等）を推進中。

※上記の業績見通し・逆転ドライバーは将来の見通しであり、暗号資産市場の変動、規制環境の変化、事業進捗の遅延等により、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

■ 第4章：Strategic Investment & Global Pivot



4-2. トップライン構成変更

- 現状：暗号資産ディーリング益（営業外収益）が利益の主軸
- 目指す姿：BaaS事業・エンタメ・AI等の「営業利益」比率を段階的に引き上げ
- 営業利益の通期目標：8.96～28.96億円（H2での逆転が必要）
- 「ディーリング収益 × プラットフォーム収益」の二層構造への移行

セグメント別構成（H1）

セグメント	H1売上高	H1営業利益
サイバーセキュリティ	4.44億円	0.63億円
空間プロデュース	3.01億円	—
ゲーム	1.71億円	—
Web3	—	セグメント利益41.1億円

■ 第4章 : Strategic Investment & Global Pivot



4-3. ドバイ拠点

- 中東・グローバル展開の戦略拠点としてドバイを選定
- Web3フレンドリーな規制環境を活用
- BandG構想のグローバル展開（アジア・北米・中東）の中東ハブ

通期業績見通し

指標	H1実績	通期目標（下限）	通期目標（上限）
売上高	11.72億円	37.25億円	57.25億円
営業利益	▲ 10.53億円	8.96億円	28.96億円
経常利益	31.11億円	96.06億円	116.06億円
当期純利益	25.67億円	62.01億円	65.51億円

■ 第5章：Global Alliance



5-1. 提携先アップデート

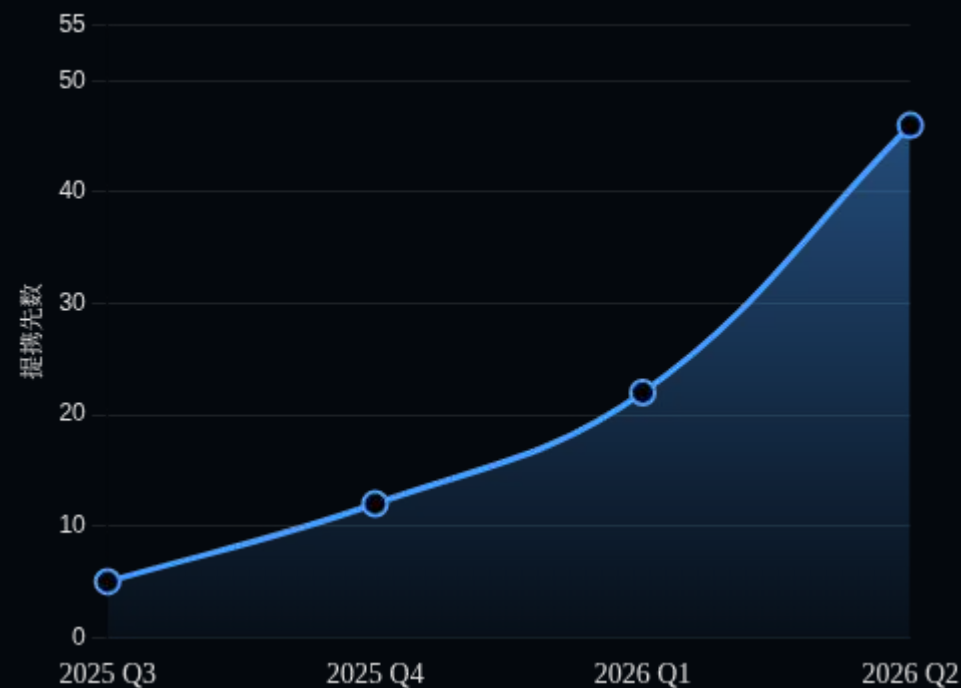
- 前回報告時（2025年10月）：27社＋非開示3件＝実質30件
- 現在（2026年4月）：IR/PRベースで **46件**（非開示分除く）
- 前回以降の新規提携にはHouse of Doge / TBH、ReYuu Japan、ウインテスト、Mars X DAO、THE 27min ORACLE、International Sumo League、Universal Digital Inc、**倉元製作所** 等

提携先成長

2025年10月：30件

→ 2026年4月：**46件** (+53%)

提携先数の推移





NASDAQ上場企業

5-2. House of Doge × abc × ReYuu Japan

5-3. Soul Capital Partners

📅 2026年1月：Dogecoinエコシステム拡大 × RWAイニシアティブの戦略的三者提携

</> abcの役割：トークンエコノミー設計、スマートコントラクト開発、規制対応を担当

📈 NASDAQ上場承認：Brag House / House of Doge NASDAQ上場合併が2026年4月7日に承認（賛成率98%超）

🌐 NASDAQ上場企業House of Dogeとの事業提携によるグローバル展開の加速

📅 戦略的パートナーシップ：カナダCSE上場のSoul Capital Partnersとの連携

📊 ハイブリッドトレジャリー戦略：暗号資産運用における基本合意を締結

🌐 グローバル展開：北米市場を足掛かりとしたトレジャリー管理の高度化と収益基盤拡大



5-4. Animoca Brands × \$NYAN

- Animoca Brands Japanとのパートナーシップ
- NYANMARU Acceleration Programを通じた\$NYANのグローバル展開

5-5. その他グローバル連携

- Universal Digital Inc（カナダ）：BTCリザーブ事業の協議開始
- Soul Capital Partners（カナダCSE）：ハイブリッドトレジャリー戦略 基本合意
- オーバース：戦略的業務提携（abc証券経由）
- ギニア共和国：包括的パートナーシップ
- 倉元製作所（証券コード: 5765）：新株式及び第9回新株予約権の引受先（2026年4月1日 IR開示済）

■ 提携先一覧 (46社)

総提携先数

46社

Web3/Blockchain 12社

- House of Doge / TBH
- ReYuu Japan
- Mars X DAO
- THE 27min ORACLE
- International Sumo League
- LBH ITALIA

エンタメ/スポーツ 8社

- Fighters Guild
- WOWBIT (WWB)
- NYANMARU Coin
- ZoomArt
- WLF PROJECT
- 少林文化DAO

金融/証券 6社

- ウインテスト (6721)
- Universal Digital Inc
- Soul Capital Partners
- 倉元製作所 (5765)
- Animoca Brands Japan

製造/IT 10社

- CANON Attack
- MVMNT
- XANA/NOBORDER.z
- Mars X DAO
- ZoomArt

海外拠点 5社

- ドバイ事務所
- ReYuu Japan
- LBH ITALIA
- Universal Digital Inc

その他 5社

- THE 27min ORACLE
- International Sumo League
- ZoomArt
- Mars X DAO

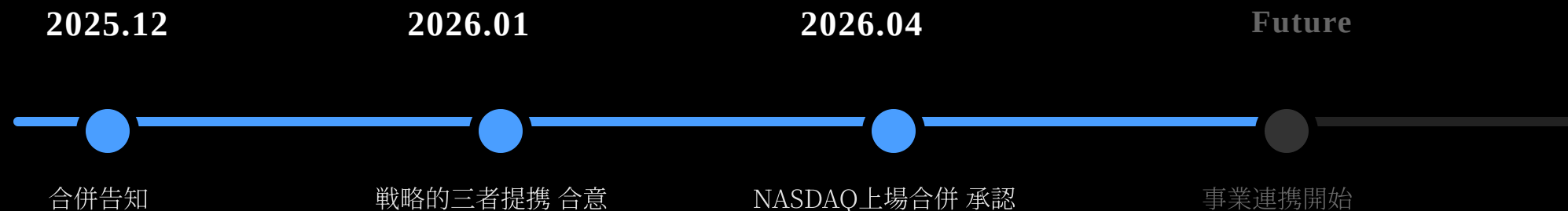
■ 第6章：M&A & RWA Fund



abc

6-1. House of Doge合併詳細

- 2026年1月：Dogecoinエコシステム拡大 × RWAイニシアティブの戦略的三者提携
- abc：トークンエコノミー設計、スマートコントラクト開発、規制対応を担当
- Brag House / House of Doge NASDAQ上場合併が2026年4月7日に承認（賛成率98%超）
- NASDAQ上場企業House of Dogeとの事業提携によるグローバル展開



6-2. RWAファンド構想

KEY CONCEPT 01

Tokenization

現実資産のデジタル化

KEY CONCEPT 02

Liquidity

流動性の高い投資環境

KEY CONCEPT 03

Diversification

多様な資産クラスによる分散



🔄 新たな投資機会の創出

RWA（Real World Asset）のトークン化により、現実資産をデジタル化し、流動性を高めた革新的な投資環境を構築します。

📊 ターゲット資産クラス

不動産、金（NyanmaruGOLD Coin実績あり）、IP・エンタメ収益権など。多様な資産クラスを対象とすることで、ポートフォリオのリスク分散を実現します。

🏠 abc RWAプラットフォーム

2026年3月に正式リリース済の自社プラットフォームを基盤に、ファンド組成を段階的に展開。システムの安定性を確保しつつ、投資家のニーズに応じた商品を開発します。

GLOBAL EXPANSION

6-3. BandG構想

アジア・北米・中東を中心とした
グローバル展開の本格的推進



グローバル展開の本格推進：BandG構想に基づき、アジア・北米・中東各地域の特性に合わせた事業展開を加速

中東拠点の活用：ドバイを戦略的ハブとして位置づけ、強固なグローバルネットワークを構築

エコシステムの拡大：Web3テクノロジーおよびAIソリューションを統合した独自のエコシステムをグローバルに展開

戦略的パートナーシップ：各地域における主要プレイヤーとの連携を通じ、グループ全体の事業価値を最大化

■ 終章：Vision Update

3フェーズ・ロードマップ

Phase 1

Platform

- BaaS型トークン生成基盤の確立
- 暗号資産ディーリング依存からの収益多角化
- ドバイ拠点などグローバル展開の足場構築



Phase 2

Scale

- 提携先ネットワークの世界的拡大
- RWAファンド及び新規AIソリューションの実装・外販
- BaaS事業の本格的な営業収益化



Phase 3

Ecosystem

- \$NYANとWWBを軸とした独自のトークン経済圏確立
- 資本市場におけるCrypto-PER等の評価指標の再定義
- ヘクトコイントレジャリーの完全実現

代表メッセージ

半年前、私たちは「利益が出るか」という問いに答える必要がありました。その問いには答えました。Q1の純利益31.92億円、Q2の評価損を吸収してなおH1で25.68億円。数字が証明しています。

しかし、「利益が出る」だけでは企業の未来は語れません。次の問いは「何を建てるか」です。その答えが、本資料で示した6つのブロックです。

BaaS支援実績10件、NASDAQエンティティとの直接連携、ドバイ拠点。半年前にはなかった景色が、今、目の前にあります。そしてその景色の先に、私たちが建てるプラットフォームが見えています。

今後、疑似金融商品としてのRWAのローンチ、Poly Marketなどを始めとするユースケースの注視と更なるプロダクトの拡張を目指し、Proof of Platformの証明を、これからの半年で目指します。

代表取締役社長
松田 元

⚠️ ● リスク要因

営業損失▲10.53億円継続

H1（6ヶ月）で営業損失▲10.53億円。前連結会計年度に続き、重要な営業損失を計上。

ディーリング依存

営業利益は暗号資産ディーリング益（営業外収益）に依存。営業利益の黒字化が移行指標。

キャッシュフロー懸念

資金繰りの懸念が継続。継続企業の前提に関する重要事象を認識。

※2026年8月期第2四半期決算短信

✔️ ● 解消策

① トレジャリーによるCF創出

暗号資産トレジャリーによる安定的キャッシュフロー創出

② BaaS営業収益化

BaaS事業の営業収益化（H2から段階的に）

③ 金融サービス拡大

金融サービス事業の拡大（House of Doge連携、RWAファンド等）

※計画通り進捗しない場合、不確実性が残存

ℹ️ ⓘ 開示要否

法的義務

継続企業の前提に関する重要事象を認識している場合、開示は義務的

投資家保護

透明性確保の観点から、リスク情報の開示が必要

開示タイミング

決算短信・IR資料で随時開示

※金融商品取引法に基づく

免責事項

本資料は、当社の事業等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載された将来の業績に関する見通し等は、作成時点において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に記載されている情報や意見は、信頼できると考えられる情報源に基づき作成されておりますが、当社はその正確性や完全性を保証するものではありません。本資料の使用に起因するいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。

Disclaimer

This document has been prepared solely for the purpose of providing information regarding our company's business and does not constitute an offer or solicitation for the investment in any securities issued by the Company.

Forward-looking statements, such as performance forecasts contained in this document, are based on information currently available to the Company and involve potential risks and uncertainties. Therefore, actual business results may differ materially from those described in these forward-looking statements due to various factors.

Furthermore, while the information and opinions contained in this document are based on sources believed to be reliable, the Company does not guarantee their accuracy or completeness. The Company assumes no responsibility for any damages arising from the use of this document.